

2016年 1月 20日

新宿区長 あて

法人名 (特) あそびと文化のNPO
 新宿子ども劇場
 所在地 新宿区北山伏町2-17
 ゆったり～の共同事務所
 (フリガナ) ノリマツ ヨシミ
 代表者氏名 乗松 好美

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	文化で地域づくり アートの花を(新宿フィールドミュージアム 2015)
実施日時又は期間	実行委員会 2/21～12/12 計43回 ワークショップ(計3カ所) 2015年 9/7・13・10/4 公演(計5カ所) 5回 11/3・8・15・22・29
対象者の範囲及び人数	新宿区および近隣地区 0才～高齢者 のべ822名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区内5つの地域(淀橋・四谷・戸塚・落合・牛込)で地域実行委員会を組織し、コンセプト(地域の大人が子どもたちへ舞台をプレゼントする)を確認して、各地域の実情に合わせ演目選定、対象年齢の検討など、11月の公演に向けて計画・広報・当日の運営・まとめまで該当地域の理事を中心に実行委員会が責任をもって行った。 ・「文化で地域づくり アートの花を プロジェクトのサポーター募集 2015」(以下『サポーター募集』)として子どもたちに文化体験が必要であるというプロジェクトに賛同し、サポートしてくださる地域の方々を募った。 ・「新宿フィールドミュージアム 2015」(文化月間)の10、11月を中心に5地域での文化体験活動のワークショップ、公演をおこなった。 ・公演は「全ての子どもたちに文化体験を!」と願い、地域貢献を念頭に子どもに対して無料で参加でき、また、ベビーカーや子どもたちが徒歩または自転車で移動できる場所での会場設定など環境づくりを考慮した。
具体的な活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会 43回 241名 【全体】 3/3,14,4/11,5/16,6/13,7/11,8/27,10/17,12/12 計9回 78名 【落合地区】 2/21, 9/1,7,13,10/11 計5回 33名 【淀橋地区】 3/8,3/13,22,4/12,18,5/5,7/12,8/16,10/4 計9回 34名 【四谷地区】 3/1,5/17,6/20,7/14,9/1,10/7,10/9,10/22 計8回 30名 【戸塚地区】 2/2,3/9,5/18,7/7,9/8,10/20,11/10 計7回 38名 【牛込地区】 3/21,29,6/7,10/25,11/8 計5回 28名

	<p>・ワークショップ (計3カ所 3回 のべ84名 大人51名 子ども33名) 【落合地区】 9/7 「西村 直人講演会」 落合第二地域センター 参加者 22名 (大人 22名 (託児 子ども 13名)) 【戸塚地区】 9/13 「からだで作ろう不思議な世界」 若松地域センター 参加者 39名 (大人 16名 子ども 23名) 【淀橋地区】 10/4 「つくってあそぼう! 踊る人形 環境学習情報センター 参加者 23名 (大人 13名 子ども 10名)</p> <p>・公演 (計5カ所5回 のべ725名 大人397名 子ども328名) 【淀橋地区】 11/3 「ゆかいな仲間のOh! ケストラ♪」 エコギャラリー新宿 参加者 83名 (大人 44名 子ども 39名) 【四谷地区】 11/8 「桂 宮治の子ども落語」 勝興寺 (須賀町 8-7) 参加者 118名 (大人 63名 子ども 55名) 【戸塚地区】 11/15 「The SHOW to R mansion」 新宿 NPO 協働推進センター 参加者 254名 (大人 131名 子ども 123名) 【落合地区】 11/22 「えほんうた あそびうたライブ」 聖母ホーム 参加者 154名 (大人 96名 子ども 58名) 【牛込地区】 11/29 「びりとブッチィーのクラウニングシアター」 牛込箆笥地域センター 参加者 116名 (大人 63名 子ども 53名)</p>
事業の成果	<p>① 25年度事業を継続し本年で3年目に入り、「すべての子どもたちに文化体験を!」をめざして、区内5カ所 (淀橋・四谷・戸塚・落合・牛込) で5公演と3カ所 (落合・戸塚・淀橋) でワークショップを開催しのべ809名 (子ども361名) の方に文化体験を届けることができた。公演参加者のアンケート164件回収 (回収率22%) のうち、144件 (87%) がとても満足した。12件 (7%) がまあまあ満足との回答を得ることができ、質の面でも、より良いものを提供できたことがうかがえる。</p> <p>② 継続してしてきたことで、実行委員がより地域の課題を的確にとらえ、地域の特色がでた事業を開催することができた。さらに、地域の中で文化活動を通じたつながりが広がった。 具体的には落合地域では、他のところでの公演を聞いた委員が「他の親子にも聞かせたい。」と発案して演者を決定した。事前の講演会は託児体制をとり、親の立場だけでなく夫婦についてはなしもあり、乳幼児の親にとってはリフレッシュする機会になった。そして、主に乳幼児の親子を対象にした公演を聖母ホームで開催し、入所者の方を含め3世代交流も自然と図られ文化を通じて普段出会う機会のない世代間が共感共有する様子がみられた。</p> <p>③ 昨年度から地域の大人が子どもたちへ舞台をプレゼントするコンセプトの趣旨が伝わるよう『サポーター募集』のチラシをつくり、地域の中で、子どもたちへの文化活動が大切だと思う人を広げるため、実行委員が地域の人へ説明をし、62組から103,000円の支援が受けられた。</p> <p>④ 「新宿フィールドミュージアム2015」に登録することで、より広く告知することができ、関係団体との交流の場も広がった。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経 費	積算根拠（内訳）		金 額
	団体負担金			290,720 円
	参加費・資料代等	託児 4500 円 チケット 251,000 円		255,500 円
	その他の収入	サポーター		103,000 円
	協働推進基金助成金	助成金交付額		500,000 円
	計	1,149,220 円		
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費 目	決算額	内 訳	
	会議費	36,670 円	実行委員会会場費 1600 円 ワークショップ・公演会場費 34,650 円 コピー代 420 円	
	宣伝費	54,597 円	チラシ印刷 41,010 円 チケット・パンフレット印刷費 13,587 円	
	リース費	0 円		
	消耗品費	35,600 円	接着剤・テープ等文具 18,730 円 プリンターインク 10,818 円 会場装飾用 2,592 円 ブルーシート 3460 円	
	謝礼	765,500 円	ワークショップ 180,000 円 (30,000 円×6名) 3 か所分 公演謝礼 390,000 円 (30,000 円×13名) 5 公演分 公演スタッフ 75,000 円 (3000 円×5名×5 公演) 実行委員会 40,000 円 (2000 円×2 回×2名×5 か所) ワークショップスタッフ 18,000 円 (3000 円×2名×3 か所) チラシ制作 30,000 円 (5000 円×6人) 託児 32500 円	
	人件費	63,000 円	ワークショップ従事 18,000 (3,000 円×3 回×2名) 公演従事 45,000 円 (3000 円×5 公演×3名)	
	材料費	0 円		
	交通費	32,820 円	託児スタッフ 10名 7830 円 チラシ運搬費 1450 円 11/15 公演運搬費 10,000 円 11/29 公演運搬費 13,540 円	
	その他諸経費	13,671 円	11/3 公演荷物郵送費 6400 円 チケット郵送費 7271 円	
助成対象事業費（小計）		1,001,858 円		
余 剰 金		円		
助成対象外事業費		147,362 円	出演者謝礼 100,000 円 駐車場 1,500 円 対象外会場費 8600 円 下見 4665 円 食費 16,365 円 プレゼント 16,232 円	
事 業 総 額		1,149,220 円		

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
<p>事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。</p>	<p>① 「地域の大人が子どもたちへ舞台をプレゼント」することをコンセプトにワークショップ3回と公演を5カ所の地域で開催することができ、361名の子どもたちには無料で文化体験を届けることが出来た。</p> <p>② 文化は地域の人と人をつなげる最も有効な手法の一つであると認識に立ち幅広い世代が参加できる公演を企画し、3世代、4世代の地域の方が集い、交流が図られコミュニティーづくりに有効であった。</p> <p>③ 子どもたちに文化体験が必要だと思ふ地域の大人を増やしていく『サポーター』を募集し62組の理解者を得ることが出来た。</p> <p>④ 「新宿フィールドミュージアム 2015」にすべての事業を掲載し、また、関係機関との交流が深められた。</p>
<p>地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。</p>	<p>① 戸塚地域では、同じ会場で、同じ時期に開催することで3割程度の親子がリピートして参加している。参加費を抑えることで、初めての公演デビューができた子育て世代が、文化体験する楽しさ、豊かさを感じ文化活動への興味をもつきっかけをつくることが出来た。</p> <p>② 継続した活動をすることで、『サポーター』の理解も深まり、文化を大切だと思ふ人の輪の広がり、興味関心を持ってくださる地域の輪が広がっている</p> <p>③ 身近な地域で開催することで、お友達家族や2世代、3世代家族で誘い合って参加することができ、コミュニティーが広がった。</p> <p>④ 「来て見て楽しい新宿フィールドミュージアム 2015」に登録し、さらに町会の掲示板等に広報することで、多くの人に告知する機会が得られた。</p> <p>⑤ 地域の30代～40代の子育て世代が継続して活動してきたことで担い手として自信をもち、実行委員としてより積極的に事業に取り組み、自らの地域で主体的に動くことが出来るようになった。</p>
<p>費用対効果は適正であったか。</p>	<p>① 作品選択は各地域の実行委員が検討し、地域のニーズに合った、より質の良いものを選出した。</p> <p>そのため、経費にばらつきがあるが、参加者を</p>

	<p>より多く動員したり、サポーターを増やしたりと各地域で努力し全体として満足のいくものができた。</p>
<p>新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。</p>	<p>① 子どもたちの経済格差による体験格差は広がるばかりであり、子どもの生活圏の中で文化体験の機会を届けることは、今後も継続して行う必要があると感じた。また、文化体験の機会が少ないのは子どもに限らず、大人も同じで、多世代での文化体験は地域のコミュニティーの広がりにとっても重要な役割を果たすと感じた。</p> <p>② 地域の潜在的ニーズが多く、3公演で会場が満席になりお断りすることとなった。ただ、より良い文化体験をしてもらうためには、作品と会場の規模、観客数などの環境設定が大事になるので、今後地域の資源の掘り起こしを含め、検討していきたい。</p> <p>③ 「全ての子どもたちに文化体験を！」と子どもたちがより多くの文化活動にアクセスできるように、そのような活動を企画する人、大切に思う人を増やすことが必要であり、そのための学習の機会も増やしたい。</p>
<p>理解者や支援者が広がったか。</p>	<p>昨年に引き続き『サポーター』を募集し 62 組 103000 円の寄付をいただくことが出来た。今後も地域の中での理解者を増やす努力を続けていきたい。</p>
<p>事務局の執行体制は十分だったか。</p>	<p>① 各公演とも実行委員体制が整い、責任者がしっかり対応できた。</p> <p>② 2、3 つの公演を申し込む方もいたが、チケットの配送、集金など大きなトラブルなく出来た。」</p>
<p>今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。</p>	<p>① 地域の大人から子どもたちに ステージのプレゼント『サポーター』募集を一口 1000 円で実施し、62 組 103,000 円の寄付を得ることが出来た。来年度以降は、さらに広報活動に力を入れ全体費用の 25%近くを寄付で賄えるよう早期の段階から地域への声掛けを積極的に行いたい。</p> <p>② ゆめ基金等の助成金や、企業、NPO の助成金、助成金事業の利用も早期の段階からアクセスし実施に向けて活動していきたい。</p>

その他

- ① 本事業の助成金があることで「この作品を地域の子どもに届けたい。」そんな思いに叶う質にこだわった作品を選ぶことができ、達成感や満足感を得ることが出来た。今後の可能性への自信もできた。
- ② 公演を実施するうえで、環境設定はとても大切である。本事業を受けることで、早い段階で会場を抑えることが出来たのは、実行委員のリスクを減らし、早い段階から準備ができるので、とても有効であった。また、広報の面からも、地域周辺の小中学、幼稚園・保育園へチラシを全校配布できたことでたくさんの子育て世代に広報することができた。
アンケート集計より広報の媒体として、チラシ（学校・幼稚園・保育園の全校配布、公共施設の置きチラシ）78名・紹介31名・広報しんじゅく2名・フィールドミュージアム1名・町会掲示板2名・その他1名の集計からもチラシが手元に届くことで、興味をもって参加してもらえる機会につながるとうかがえる。
- ③ 「すべての子どもたちに文化体験を！」と思うより多くの人を輪を広げ、文化体験の場をより多く創り出していくこのような事業は私たちの原動力になるとともに、その成果を地域の受益者はもとより、地域の中で共有、共感できる関係性を築くことが、地域のコミュニティーづくりに有効であることを認識し、団体として責任をもって活動を継続していく。

4 活動の成果

*事業の成果物(冊子など)又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
*参加者の意見なども報告してください。

1) 実行委員会

①地域の実行委員会では、作品選出から決定、出演者への依頼、契約、会場探し、チラシ作成、配布、ワークショップ、公演の準備、進行、会場づくりまで責任をもって開催された。

また、アンケートの集計、反省を含め次年度へ向けて話し合いが行われた。

②全体委員会で、団体理事を中心に各地域の進行状況を確認、共有し、協力体制をとった。また、全体での取り組みとしてチラシ裏面の構成、『サポーター』のチラシ作成、広報、取りまとめ、報告書作成を行った。また「来て見て楽しい 新宿フィールドミュージアム 2015」の広報窓口を担当した。

2) ワークショップの開催

①【落合地区】9/7 「西村 直人講演会」 落合第二地域センター

対象：保護者世代 22名(託児 子ども 13名) 出演者：西村 直人

内容：子育てしていく中での夫婦関係をよりよくしていくエッセンスを本人のエピソードを交えながらの話と、楽しみながら絵本を読む、歌遊びも教えていただき参加者と一緒に振付に参加しました。(託児があったことで、じっくり聞くことができた。)

②【戸塚地区】9/13 「からだで作ろう不思議な世界」若松地域センター

対象：幼児～大人 参加者 39名(大人 16名 子ども 23名) 出演者：to R mansion

内容：10分間のミニステージの披露のあと、体を使った表現遊び。体を使ってバナナやはさみを表現したり、参加者同士でチームを作って海の波を表現したりしました。

③【淀橋地区】10/4 「つくってあそぼう！踊る人形 環境学習情報センター
対象：幼児～大人 23名（大人13名 子ども10名） 出演者：グレゴ
内容：グレゴ氏の奏でるハーモニカを聞きながら世界に一つだけの踊る人形づくり。紙と竹の棒に息を吹き込んでイメージを具現化。

3) 地域公演

①【淀橋地区】11/3「ゆかいな仲間のOH! ケストラ♪」会場：エコギャラリー新宿
時間：14：00～15：00 出演者：グレゴ 参加者83名（大人44名 子ども39名）
内容：いろいろな音をかなでるステッキで演奏しながらグレコさんが登場。楽器が人形になり、人形が楽器を演奏する。素朴でやさしい音楽とワークショップで作ったタップ人形「リンバージャック」の軽快なタップダンスショー。

②【四谷地区】11/8 「桂 宮治の子ども落語」会場：勝興寺（須賀町8-7）
時間：14：00～15：00 出演者：桂 宮治 参加者118名（大人63名 子ども55名）
内容：落語のいろはは着物の着方からはじまり、始まり・終わりの太鼓の意味、扇子・手ぬぐいの使い方の披露のあとは子どもたちが高座に上がり、実演。最後に300年前にできたといわれる動物園の落語を一席。「落ち」に大笑いして終了。

③【戸塚地区】 11/15 「The SHOW to R mansion」 時間：14：00～15：00

会場：新宿 NPO 協働推進センター 出演者：to R mansion

参加者：254名（大人 131名 子ども 123名）

内容：大道芸の公演。ゴムを使ったパフォーマンス。三人のおじさん、ロッキーなどのショートストーリーの数々。パントマイムやアクロバットもあり、目を離せないパフォーマンスが次々と繰り広げられた。

④【落合地区】 11/22 「えほんうた あそびうたライブ」

会場：聖母ホーム

時間：14：00～15：30 出演者：西村 直人 ・DJ あっくん

参加者：154名（大人 96名 子ども 58名）

内容：西村さんと DJ あっくんの音楽から始まり、みんなが知っている絵本に音楽と簡単な振付をつけて会場も参加。新聞しを利用した音楽づくり。クラシック音楽に合わせて会場全体で演奏会をしました。

⑤【牛込地区】 11/29 「びりとブッチーのクラウニングシアター」

時間 14：00～15：00 会場：牛込箆笥地域センター 出演者：びり&ブッチー

参加者：116名（大人 63名 子ども 53名）

内容：ピエロに扮した二人の大道芸。コメディ色が強く、マイムやジャグリング、スローモーショントボクシングなど、会場が初めから終わりまで笑いに包まれていました。